

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
落日を絞りこみたる烏瓜

鈴木 たか子

薄墨に暮るる夕空年惜しむ

小林 啓治

母の忌をすませて戻る小春道

萩原 勅彦

綿津見の呻と聞くや虎落笛

藤田 凡鐘

名も知らぬ秋草活けていとほしむ

小林 フク

動かざることが海鼠の自己主張

三代 みちよ

冬銀河娘に伝ふこと書き止めて

若色 寿美女

髪型を変へて初冬の小旅行

金田 とう女

真つ先に仏に供ふ今年米

渡辺 いし

百度石百たび踏まず落葉踏む

入山 ひろ子

虎落笛膝のきしみまじりたる

永瀬 ちい

山繭のときには揺れてまた眠る

細谷 充女

トンネルの風を誘ひて花すすき

萩原 きしの

【茂山俳句会】

一布衣となりたる日々の頬被

松崎 いま

生き甲斐の一つは句作り冬日向

鶴見 菊江

諳んずる九九の子の息湯冷めをり

鈴木 ノブ子

夕映えの山波染めて日の短か

向後 礼子

忘却の日々重なりし日の短か

田崎 信子

泣ける子につられて泣く子日の短

宮本 芳江

大根の髻をつかむ如きかな

吉原 秀子

短日や計画通りゆかぬまま

海老沢 幸子

傘寿なること亡夫に告ぐ小春かな

笠倉 陽子

曲水の枯れの音なる毛越寺

海老沢 静夫

手元まで闇の来てゐる冬茜

井坂 洋子

神無月天狗の面の大きかり

今井 繁子

そぞろ寒オカリナの音ちぢこまり

君島 真理子

冬日向無心の夫の呼吸を聞く

大関 くに

短日の心せわしく同窓会

竹林 てる

時雨よぶいろに染まりて櫻島

飯山 昭

俚謡

【さくら俚謡会】

朝な夕なに神仏拝む老いも笑顔で初日の出

岩瀬 きみ子

風に木の葉が乾いた音で春はまだかと福寿草

つく志 輝美

月のうさぎは忙しい初日宇宙平和の舵を取る

田 哲人

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ